

### 県政 Pick up 1 遊佐町が、新たな特産品として開発した「烏海あわび」の陸上養殖が本格化。

豊富な伏流水が海へ流れ込む遊佐町では、平成25年度に鎌磯海岸脇にある町漁村センターの施設を改修し、容量500%の水槽4基とあわびの稚貝500個の養殖からスタート。令和2年6月では、容量500%から1,400%の水槽48基で約5万1,000個を養殖しています。烏海あわびは、雑味が少なく、ミネラルたっぷりです。あわび本来の味を楽しめます。

### 県政 Pick up 2 酒田港国際ターミナル拡張工事が終了し供用開始。大型船2隻同時受け入れ可能に。

酒田港国際ターミナルの拡張工事が終了し、令和2年8月29日より拡張部分の供用が始まりました。拡張工事は、近年増加するコンテナ貨物の対応と定期コンテナ航路の増便を見越したもので、岸壁を430mに延長したほか、コンテナヤードも約1.1倍拡張。これにより、大型コンテナ船が2隻同時に接岸しての荷揚げが可能になりました。よって、コンテナの

拡張部供用式典での吉村美栄子知事



設置能力も拡充され、物流拠点の機能が強化されました。拡張部供用式典で吉村美栄子知事は、「酒田のにぎわいが、県の発展につながる。ポストコロナの時代を見据えて、ポートセールスに全力で取り



### 県政 Pick up 3 令和元年度の県産農産物輸出量が、過去最高の1,650億円。輸出額は、8億2,800万円。

令和元年度の県産農産物輸出量が、前年度比143%増の1,650億円と、3年連続で過去最多となりました。輸出量が最も多かったのはコメで、前年度比141%増の1,338億円(輸出額2億7,800万円)。輸出先は、香港が234億円と最も多く、シンガポールが234億円、米田・カナダが207億円、日本食レストランでの県産米の需要が好調でした。次に多かったのは、リンゴで

### 県政 Pick up 4 日本海東北自動車道の酒田みなとIC-遊佐比子IC間(5.5km)が、令和2年12月13日開通。

日本海東北自動車道(日東道)の酒田みなとIC-遊佐比子IC間5.5kmが、令和2年12月13日に開通。平成21年度に事業化された酒田みなとIC-遊佐比子IC間12kmの一部で、残り区間は2023年度、秋田との県境区間は2026年度に開通予定。総事業費310億円、令和2年度末の事業費ベースの進捗率は78%、用地買収進捗率は98%です。遊佐町に初めて高速道路が開通しました。開通式で吉村美栄子知事が「高速道路の整備はあらゆる分野に影響を及ぼします。1日も早い日東道全線開通を目指して、沿線自治体と一丸となって取り組みます」と挨拶。丸山至市長は「地域振興のはずみになります。新庄酒田道路を含めて、ミッシングリンク(未接続区間)解消が国土強靱化の要です」と強調。

石黒さとる 活動日誌 令和2年2月28日(金) 2月定例会の本会議に和装姿で議場入り(山形市)

令和2年2月29日(土) 県政クラブ「新型コロナウイルス対策本部」を設立(山形市)

令和2年3月2日(月) 「新型コロナウイルス対策本部」第1回対策会議(山形市)

令和2年3月26日(木) プレスター・インターナショナル山形第2BPOセンター-建築工事起工式に出席(酒田市)

令和2年4月3日(金) 「新型コロナウイルス対策本部」第4回対策会議(山形市)

令和2年5月14日(木) 酒田市平田地区滝谷の治山事業を現地調査(酒田市)

令和2年5月14日(木) 緊急事態宣言解除後の県政を報告する臨時の記者会見(山形市)

令和2年6月17日(木) 中野俣川河川整備・沖地区圏整備事業の説明会に出席(酒田市)

山形県・令和2年度6月補正予算(追加)の主な事業①(政府の令和2年度第2次補正予算への対応などによる新型コロナウイルス感染症対策関連経費) 健康福祉部 ● 新型コロナ対応従事者への慰労金給付(新型コロナの拡大防止に尽力した医療機関の職員や、サービス継続のために従事した社会福祉、児童関連施設の職員に対する慰労金).....57億9,100万円

### 医療・福祉業界に迫る「2025年問題」と庄内地域における地域医療構想の在り方

代表質問 石黒党・議員／質問 これまでも何度も質問した、医療・福祉業界に迫る「2025年問題」です。団塊の世代が、75歳後期高齢者に達することから、医療・福祉などに大きな影響を及ぼすことに対して、国および都道府県が「地域医療構想」を推進しています。県も平成28年に策定され推進しています。しかし、この度の新型コロナウイルス感染症拡大という、医療現場にとっては予想もできない極端にひっ迫した状況で、地域医療構想を具体化する議論や取り組みが困難な状況です。 県の「地域医療構想」を議論するとき、北庄内地域での「日本海ヘルスケアネット」に注目しない訳にはいきません。令和2年11月16日に、熊田総務省副大臣が日本海総合病院や関係施設を視察され「地域の事情に合った大々よくなった仕組みだ」と感想を語りました。平成

院長は「病院同士の緩い連携ではなく、踏み込んだ連携をしなければならぬ」と述べている。医療従事者人材確保も地域全体で調整が必要」と語り、医師会理事は「鶴岡、酒田両市は別々でなく、庄内一体で地域医療を考えなければいけない時代になっている」と、庄内病院院長は「庄内病院の患者数が減っているが救急外来患者数は変わらない。庄内病院の医療の力を強力にしていかなければいけない」と評しています。 この度の新型コロナの流行に伴い、感染症指定医療機関を補完するための複合的な受入体制が必要となるなど、これまでの地域医療構想では想定されていない事態が生じています。こうした状況を踏まえ、令和2年8月に厚生労働省より、感染症への対応の視点も含めた今後の地域医療構想に関する進め方などを、改めて整理のうえ示す通知があり、県は厚生労働省

在宅医療や介護サービスに至るまで一連のサービスを切れ目なく提供する体制を構築するために必要取り組みです。 庄内地域では、日本海総合病院と地域の医療機関や社会福祉施設などが連携する地域医療連携推進法人「日本海ヘルスケアネット」や、鶴岡市における市民研究会による将来の地域医療のあり方に関する議論など、持続可能な地域医療の確保に向けた活動や自発的な議論が行われており、県内において大変有意義な取り組みだと評価しています。 今後の新型コロナの流行に伴い、感染症指定医療機関を補完するための複合的な受入体制が必要となるなど、これまでの地域医療構想では想定されていない事態が生じています。こうした状況を踏まえ、令和2年8月に厚生労働省より、感染症への対応の視点も含めた今後の地域医療構想に関する進め方などを、改めて整理のうえ示す通知があり、県は厚生労働省

の検討の動向を注視しています。 今後、人口減少・高齢化や施設の老朽化が着実に進んでいくなか、今後の地域における医療提供体制のあり方を改めて考え、必要な見直しに取り組むことは避けて通れない課題です。県は、政府における議論の動向を注視しながら、地域医療構想調整会議において、こうした地域における現場の取り組みや声を丁寧に披いつつ、持続可能な医療提供体制の構築に向けて、関係者との議論を進めたいと考えています。 老朽橋梁の補修や架け替えの選定方法と実生橋の架け替え箇所の選定について 代表質問 石黒党・議員／質問 まさに地球温暖化に起因するといわれる、近年の激甚化・頻発化する天候由来の自然災害、爆弾豪雨などによる甚大な被害の状況を受け、社会インフラの重要性を再認識するとともに、早期の強靱化の必要性を強く感じています。 重要な社会インフラである道路・橋は、高度成長期に集中的に整備された経過があり、今後急速に老朽化が進むことが懸念されると考えます。このため県は、予防保全型維持管理による道路橋の長寿命化に取り組んでいると認識していますが、老朽橋梁の補修および架け替えなどについて、これまでの取り組みはどのように進めてこられたのか、そして今後どのような方針で進められますか。 また「県道路中期計画2028」に記載されています。令和2年12月3日、県公共事業評価監視委員会会議についての報道がありました。そこには、架け替えをする箇所として、私の居住地・酒田市の国道112号実生橋が記載されています。このような考え方で選定されているのか、県土整備部長に伺います。 県土整備部長／答弁 これまでは、県管理の約2,400橋を法令に基づき、全て近接目視点検を行い、健全度を診断し、壊れる前に補修するというメンテナンスサイクルをすることで、橋梁の長寿命化を図り、長期的な維持管理コストの削減を図っています。なお、長期的な維持管理コストと比較のうえ、経済的な理由から、架け替えを行う場合もあります。 今後は、橋梁の超高齢化への対応が必要です。建設後50年以上になる橋梁は、10年後に5割を超えますので、突然に重大な損傷が発生する不確実性も考慮する必要があります。これに対応するには、点検データやノウハウを蓄積することで、よりの確かな健全度の診断を行うことです。また、損傷の進み具合や補修期間、補修費用を行うことです。これらにより、安全かつ持続的に橋が利用できるような形で進みます。 架け替え箇所の選定は、損傷



状況や交通への影響などを、総合的に判断します。例えば、実生橋は、建設後84年が経過し、再度、補修することが経済的なくなるほど損傷が進んできたこと、架け替え時に迂回路となる道路の整備が完了する目処もついたことなどから、架け替え箇所に選定しました。 県は、規模が大きい事業に新規に着手しようとする場合、透明性と客観性の確保の観点より、有識者で組織する「公共事業評価監視委員会」から意見を聞くことになっています。この実生橋は、令和2年12月2日の同委員会において審議され、「事業実施が妥当である」との意見をいただきました。よって、令和3年度当初の予算編成作業に取り組みます。